

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字池尻887-1		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果確定日	平成26年6月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の重点支援テーマは、「利用者さまへ、最大の笑顔と真心をもって支援していきましょう」を掲げ、職員一丸となって取り組んでいます。このテーマは単に利用者の利便の追求に留まることのみならず、職員の意識向上とサービス精神の涵養を目指し、人間教育の一環として掲げています。開設以来12年目となり、地域に溶け込み、地域と一体となって認知症利用者の支援が行えています。今後はさらに地域との連携を深め、障害者や児童福祉との連携をも模索しつつ、前進してゆきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所12年目のいきいきハウス池尻は、近隣小学校との交流や地域の神幸祭の来所も継続し、日課の散歩で地域の方と挨拶を交わすことも多く、地域の信頼も篤く、家族から直に問い合わせを受けて入居に至る方もある。入居者が待ち望んでいる恒例の地域の温泉行は、お馴染みさんとして家族風呂や昼食時の予約が円滑で、また、医療機関でリハビリを受ける入居者だけでなく家族も同乗の送迎も継続し、夫婦で過ごす時間を確保するなど、笑顔のある生活を支援している。職員の異動はあるが、ケア方針の唱和を継続し、入居者の声かけや対応、移動等に応じて、どのような姿勢が適切かを細やかに指導するなど、人材教育に努めている。地域包括支援センターや医療機関等との連携や職員の笑顔のある支援で、認知症やケア等に関する情報を発信しながら、理念やケア目標の実践が今後も期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/ 事業所名		いきいきハウス池尻			
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創業からの理念の他に、年次重点テーマを掲げ、毎朝呼称し、職員への周知をしている。	玄関入口や事務所に掲示したケア方針の唱和を継続している。系列ホームより移動した職員や新規入職者もあり、担当者は日々入居者との関わりを通じて方針の具現化について、指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政区や隣組との付き合いを生かし、地域交流できるように取り組んでいる。	開所12年目となり、近隣小学校との交流や地域の神幸祭の来所も継続し、日課の散歩で地域の方と挨拶を交わすことも多く、近隣の店から果物等の差し入れをいただいている。地域の信頼も篤く、家族から直に問い合わせを受けて入居に至る方もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主導の予防教室等が中止されているため、来年度の町支援単独事業等を受託できれば行いたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見については、適切に対処し、改善や工夫を行い、運営に生かしている。	家族や民生委員、自治会区長等の参加で、定期的開催され、議事録を整備している。家族が参加しやすい時間を設定している。行事や避難訓練の報告をしたり、行政からの情報が伝えられることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談が頻繁に行われており、行政の訪問や要請も多々ある。	地域包括支援センターや保護課と連携しながら、自宅で独居になった入居者の姉の健康管理を支援している。ホームのシャワーで保清を支援したり、冷凍野菜を使った簡単な調理を教えたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修で職員の指導を行い、理解を深めている。	玄関にセンサーを設置し、入居者の動向の見守りをしている。施錠等の身体拘束の具体的内容について理解している。「だめ」や「待って」を使わないケアに努めているが、類似言動については随時話し合い、気づきを深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相互監視による報告の仕組みをルール化し、情報を収集し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での習熟チェックを行い、権利擁護の気持ちが浸透するようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料を整備している。現在まで、事業や制度の活用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し納得いくまで確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望は、出しやすい雰囲気でごちからからお尋ねもし、責任者へ必ず伝達されるようにしている。	家族会の開催も継続し、職員や入居者の異動等を報告している。家族から、家族以外の知り合いや親族の電話の取次ぎや訪問を認めてほしいとの要望があったが、個人情報や入居者の安全に配慮したいとのホームの方針に了承を得ている。今後、入居時に丁寧な説明をしていきたいと話している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で出された意見を検討反映させるほか、日々の気づきを吸収する工夫をしている。	月1回の職員会議は、運営者も参加している。入居者の心身の状態やケア内容について、情報を共有している。また、外食や温泉等の外出や行事に関する企画会議も行われ、担当する職員は外出先の下見後、企画書を提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場作りを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は公平である。社会参加や自己実現の取組を今後充実させたい。	職安や民間求人広告で入職している。面接では毎回、「介護とはどのような仕事だと思うか」をまず尋ねている。マナーに関する外部研修会に参加したり、介護係長が入職者の段階に応じたOJTを実施している。毎年、忘年会等の慰労会も開催され、職員がいきいきと就労できる職場づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて、人権尊重教育を実施し、サービス提供に生かしているか、実践状況の把握に努めている。	運営者は、年次重点テーマに「真心を持って支援」を掲げ、入居者の声かけや対応、移動等に応じて、どのような姿勢が適切かを細やかに指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修でマニュアルに従って、自然に習熟度を上げられる取組をおこなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域介護ネットワークが立ち上がり、今後増加する予定である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して穏やかに過ごせる見通しが確立するまで、初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通じて行っている。何でも言い易くするため、投げかけを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスの利用が第一優先であるという認識の下で、ニーズの確認を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力しながら、支えあいながら、ともに暮らす、という雰囲気ができている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始当初から、協力を要請し、家族の関与を引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援を得て、本人の意思を尊重している。	入居者が待ち望んでいる地域の温泉行は恒例となり、お馴染みさんとして、家族風呂や昼食時の予約が円滑になっている。また、医療機関でリハビリを受ける入居者だけでなく家族も同乗して、医療機関への送迎も継続し、夫婦で過ごす時間を確保している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないように、共同レクリエーションや作業を通じて、さりげない支援を継続している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々訪問するなど、安否確保に努めている。年間カレンダーは、毎年届けて、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて安心して穏やかに過ごせるように把握に努めている。初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させ、本人本位の把握に努めている。	基本情報やアセスメントシートを整備し、入居者の情報を共有している。入居者の生活歴や職歴、家族状況を踏まえ、職員会議で入居者の意向や状況の変化を共有している。	初期アセスメントを活用し、新たな意向等の情報を書き加えるなど、シートの記載等を工夫し、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前段階での情報収集や、関係者からの聞き取りを通じて、本人本位に行われている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態や健康管理面の情報を適切に分析し、個々人に合わせた支援に繋げている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを適切に行い、モニタリングを通じて現状ニーズの把握をし、最適の計画を作成・実行している。	座位保持ができなくなった入居者もあり、治療方針に沿って、家族と相談しながら、全職員で血糖を上げる食事を支援している。毎月の職員会議で、情報を共有し、ケアを見直している。	職員会議で見直したケアを介護計画に明記し、全職員が計画を常時確認できるように、個人記録のファイルに計画を綴じ込みされてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有・計画の見直しについては、職員間の連携が取れており、適切に行われている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入の検討や業務改善アイデアなどにより、柔軟に対応できる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や商店街の催事の活用など、積極的に取り組まれている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得て、希望の医療機関への受診が行われている。	家族に医療機関受診の同行をお願いしているが、家族の治療方針等の理解が不十分な場合は、医療機関に出向き、情報を収集している。定期的な体重測定や水分摂取量や食事摂取量等がかかりつけ医に報告され、異常の早期発見につながっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の把握は、日々の観察の中、カンファの際、ともに情報の共有を行い、適切に医療機関に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を、例外なく入院先と打ち合わせできている。入院中のメンタル対策にも成果を上げている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時で大まかな希望を聴取し、その後状態変化に応じてご家族や本人の希望に沿った方針を示している。必要な場合医師を含めた三者で終末期の対応を話し合っている。	昨年、看取りを支援している。ホームでの看取りを希望され、家族と十分に話し合いを重ねており、家族からはホームでの看取りに、謝辞があった。また、終末期を迎え、来所した家族の「他の入居者もいるので、ここに居ては職員に迷惑がかかる」との意見で、医療機関に緊急搬送した入居者もある。職員は、最善の関わりを家族と話し合っているが、家族の心情の理解に今後も努めたいと話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、各職員の能力に応じた訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政区の避難場所への誘導時において、地域住民への協力を要請している。	地区消防団が来所し、消火器の使い方の指導を受けて、入居者とともに消火活動をしている。AEDをレンタルし、職員会議等で取扱いについて周知している。日用品の備蓄量を収納棚に記載して、備蓄量が不足すれば、即購入するように申し合わせをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へは敬語で接する事を基本に、尊重する姿勢で臨むよう指導を行っている。	入居者より低い姿勢で声かけや支援をするように新任職員に指導したり、手招きではなく職員が入居者の傍に行くよう指導するなど、入居者の尊厳のある生活を支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの食材の調査を行ったり、今日の食べたいものに合わせたメニュー変更等柔軟に行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望のhyぶ出を見逃さず、さりげなく促すなど、希望を叶える行動を取っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択が出来る取組を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自発的な行動を尊重しながら、食事に対する関わりを持たせる支援を行っている。	家族からの差し入れも多く、楽しみながら食べられるように支援している。うどん屋等で外食を楽しんだり、温泉入浴後は刺身定食が定番となっている。入居者から「今日は(味付けが)まあまあやね」と食事を作っている職員に労いの声かけもあり、職員も同じテーブルで同じ食事を摂りながら、食事介助や見守りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランス、摂取量の把握を通じて、随時に医師とも相談しながら行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自発的ケアを促すとともに、訪問歯科の活用で口腔衛生の保持ができています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活支援の中の重要な活動と捉え、支援促進を積極的に行っている。	1時間毎のトイレ誘導で自尿を促し、布パンツ着用を支援している入居者もある。準夜帯だけでなく深夜帯も誘導するなど、チームケアを実践している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携の中で主体的に取り組むほか、運動、水分、食物繊維に立脚した対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のパターンは施設で決めているが、本人の意思を尊重することができるような柔軟さを持たせている。	週3回の入浴を支援している。車イスの入居者はキャスター付きのシャワーチェアでベットまで迎えに行くなど、心身の状況に応じた支援をしている。浴槽に浸かるまでは、拒否的言動ある入居者も「気持ちいい」と入浴している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠への過程で、安らぎを持たせる支援を行って、安眠が確保できるよう、取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳により、用法や副作用は把握できている。医師との連携により、適切な支援に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の志向に合わせた取組ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と相談をしながら、行きたい場所への支援を行っている。10年ぶりに実家への帰宅を望んで実現し、先祖の位牌を拝んで喜ばれた方もいた。	日頃は、ホーム周辺の散歩を日課としている。交流している近隣の小学校の校庭を眺めたりしている。年間計画に沿って花見を兼ねた日帰り温泉を楽しんだりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持することはほとんど無いが、施設の買い物に出かける際、利用者が支払い、計算する事を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	折々の時候の挨拶を、はがきや手紙で行えるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せるよう、利用者と工夫して、行っている。	庭に枇杷やサクランボが植えられ、収穫した実を楽しんでいる。「もうゴーヤはいい」との入居者の意見で植えられた朝顔や向日葵が、盛夏時は窓から眺められる予定である。玄関を入ると共用空間で、テーブルやイスが置かれ、厨房や洗面台が設置されている。ワンフロアのため、職員の姿が常にあり、入居者が安心できる造りである。廊下には交流のある近隣小学校のアンビシャス広場内容や、外食や足湯でのスナップ写真を掲示している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カーテンや家具での仕切り、庭の東屋での会話の場面など、過ごし方を工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ち込んでもらっており、居室の工夫はご家族とともにおこなっている。	居室入口に名前を掲示している。自宅から筆筒や日用品を持参し、家族との写真や職員手書きの似顔絵の色紙が掲示され、居心地よく過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は見守りに徹し、利用者の自立主体で支援を行っている。		